

## ウェスレーの「伝道者12則」形成に関する研究

野田 禎

はじめに

本多庸一が召天して100年を越えた。本多は津軽藩の藩士として育ち、やがて横浜でS・R ブラウン宣教師、J・H バラ宣教師、弘前ではメソヂスト派のジョン・イング宣教師に出会い、彼の影響でメソヂストとなった。1876年には東奥義塾の塾長、弘前教会の牧師を兼務し、そののち、東洋英和学校に移る。ドルー大学で神学を学び、帰国後東洋英和学校の校長になった。そして東洋英和学校が青山学院になった時（1890年）に2代目の院長となる。1907年には日本メソヂスト教会が設立され、本多は初代監督となり、17年間院長をしていた青山学院の院長職を辞する。<sup>1</sup>

翌1908年には日本メソヂスト教会教義及條例が発刊された。本多はこの條例編纂委員であり、「伝道者12則」はこの條例の中に記されている。

田中が示唆しているように、「伝道者12則」はメソヂストの説教者にとっての大切な靈的方向性を示すものである<sup>2</sup>。メソヂストの特色を發揮し、ウェスレーの人格を反映し、今日に至るまで世界中のメソヂスト教会が厳守しているというほど、伝道者にとって大切な靈的な方向性を持つものであるならば、青山学院時代、牧会学の教鞭を執っていた本多は「伝道者12則」に則った神学教育

---

<sup>1</sup> 青山学院『本多庸一』（東京都、青山学院、1968年）

<sup>2</sup> 田中亀之助『ウェスレー傳』（教文館出版部、1929）167頁

ウェスレーは自らの体験よりと、また道徳輕視主義者に備へるためと、その部下の伝道者訓練の為に、伝道者心得十二則を制定した。これはメソヂストの特色を發揮して居ると共に、またウェスレー自らの人格を反映するもので、今日に至る迄世界のメソヂスト教会が厳守しつつある所のものである。」167頁

をしたと考えて良いのではないか。

本小論は「伝道者12則」形成のルーツを按検し、ウェスレーが伝道者に対して求めていた霊性について再考することを目的としている。

## 本論

### I. 「伝道者12則」のルーツを探る出発点

#### A. 日本メソヂスト教会教義及條例

藤本は「ウェスレーの神学」の中で、「ソサエティー・リーダーの12規則」を紹介している。<sup>3</sup>「伝道者12則」と「ソサエティー・リーダーの12規則」とは<sup>4</sup>重複する部分もあるが、項目4、項目12などに数多くの相違がある。

日本語で「伝道者12則」と紹介されたものとして、田中亀之助の「ウェスレー傳」が挙げられる。田中が出典としている<sup>5</sup>日本メソヂスト教会教義及條例として最初に発刊された、日本メソヂスト教会教義及條例の「伝道者十二則」に相当するものを次ページに記す。<sup>6</sup>

---

<sup>3</sup>藤本満『ウェスレーの神学』（福音文書刊行会、1990年）393頁「ソサエティのリーダーとはソサエティー専属の教職をもった伝道者が不在の時に、その人物が代わってソサエティーの指導にあたる。」

<sup>4</sup>藤本がその出典としている *Works*. viii, 309 頁には“*What are the rules of a Helper*”と記されている。ソサエティーのリーダーにはアシスタントとヘルパーがいた。1744年から1799年の年会記録をまとめている *Minutes of several conversations* で“*What are the rules of a Helper?*”にある *Helper* はソサエティーのリーダーで、一般的な説教者を意味する。

<sup>5</sup>1929発行。最初に條例が出されてから20年経過しているが、「伝道者12則」がメソヂストの伝道者にとって肝要な位置を持ちメソヂスト教会が厳守してきたことだということが分かる。

<sup>6</sup>『日本メソヂスト教会教義及條例資料』（1907年、明治40年制定、1908年印行）青山学院図書館所蔵（青山学院資料センター）これに近いものとして更新伝道会『日本メソヂスト教会教義及條例資料』（1992年）西堂昇解説がある。この條例資料は『日本メソヂスト教会教義及條例』（教文館、1909年、明治42年）であるが、内容は1907年版と同一である。編纂者は本多庸一。できるだけ原文の旧字体を用いた。

第二欸 傳道師の行状<sup>7</sup>

第五十條 一則

勵精にして無爲なるべからず、無益の事を爲すべからず、又無益の事をなすべからず。徒に時間を費すべからず。

第五十一條 二則

端正謹嚴にして『主に献げたる聖なる物』を以て標語となすべし。輕浮、戯謔又妄言を慎むべし。

第五十二條 三則

言語を少くすべし。婦人に對するときは、其舉動を慎むべし。

(提摩太前書五の二参考)

第五十三條 四則

確證なくして他人の惡事を信ずること勿れ。己れ目撃するにあらざれば容易に之を信ずべからず。裁判官は犯罪者の庇保者たりとの諺を記憶して何事にてても好意を以て判斷すべし。

第五十四條 五則

猥りに人の惡事を言ふこと勿れ。特に爾の言語は脱疽のごとく腐れ爛べければなり。人に過失ありと思はば、其人に遭ひ面あたり言ふまでは口外に發する勿れ。

第五十五條 六則

爾の監督する者にして、若し言行、氣質に正しからぬとあらば直に愛を以て明白に之を諫むべし。若し之れを言出さざる時は、徒らに汝の心の中に苦悶を覺ふべし。宜しく速かに之を言ひ出べし。

第五十六條 七則

高慢虚飾を慎むべし。福音を傳ふる者は衆人の奴僕なりと心得べし。

第五十七條 八則

罪惡の外何事をも耻す勿れ。

第五十八條 九則

---

<sup>7</sup> 『日本メソヂスト教会條例教義及條例』(1907年制定、1908年印行) 60-63頁

精密に時間を守りて違ふべからず。教會の規則を變改するよりは、寧之を遵奉することを勉むべし。而して責罰を恐るるにあらず、良心に依りて之をなすべし。

#### 第五九條 十則

爾は人の靈魂を救ふの外何事をもなす可らず故に之が爲めにのみ財を費し身を盡すべし。(哥林多後書十二の十五)又汝を要する者に往くのみならず、最爾を要する者に往くべし。屢々説教し教會を監理するとのみを以て爾の職務とせず、宜しく其力量を盡して衆人を救ひ、罪人を悔改せしめ、勉めて聖徳に進ましむべし。蓋し人、聖からざれば主を視ること能はざればなり。又メソヂスト教會の傳道師は本教會條例の智慧、條款を細大まもるべき者たることを記憶すべし、故に傳道師は其千惠真徳を使用するを要するなり。

#### 第六〇條 十一則

凡ての事みな自己の意志に依ることなく、福音の訓に従ひて之を行ふべし。然れば傳道訪問、讀書、默想、祈禱をなすに當たり、宜しく條例の指示する所に従ふて爾の時を用ふべし。殊に主の葡萄園に働かんとせば、時と處とに應じて、最も主の榮光を彰はすものと教會當局者の判定せし事を行ふべし。

第六十一條<sup>8</sup> 右の外守るべきもの左の如し。

- 一、會衆を失望せしむる勿れ。
- 二、説教は定めたる時刻に始むべし。
- 三、舉動は宜しく端正、莊嚴なるべし。
- 四、説教は常に宜しく聽衆に適する問題を選ぶべし。
- 五、題詞は最も明瞭なるものを選ぶべし。
- 六、題詞に循ひて明白に説教せよ、決して他事に涉るべからず。
- 七、説教の時は其態度、言語、發音に於て蕪雜または高慢虚飾の風あるべからず。
- 八、祈禱は通例八分乃至九分を過ぐべからず。

---

<sup>8</sup> 第六十一條には、十二則という文字がない。

九、屢々聖書中の一部分を讀みて之を敷衍すべし。青年の傳道師は題詞を設けずして屢々會衆を獎勵すべし。

十、大節期（降誕節、復活日、五旬節等）の際には適當の説教を為すべし。

B. 「ソサエティー・リーダーの12規則」

次に、藤本の「ソサエティー・リーダーの12規則」をそのまま引用する<sup>9</sup>。

1. 勤勉であれ。

一瞬たりとも無為に過ごしてはならない。無駄なことに関わってはならない。無駄に時間を費やしてはならない。厳密な必要を越えて一つのところに時間を費やしてはならない。

2. 真剣であれ。

“主への聖なるもの”(Holiness to the Lord:ゼカリヤ14:20) をモットーとし軽率な冗談な愚かしい会話をすべて避けよ。

3. 言葉少なく語り、婦人との会話には特に若い婦人の場合は慎んで語ること。

4. 信仰の兄弟に相談することなしに結婚について話を進めてはならない。

5. 確証なくして他人の悪事を信じてはならない。自分で目撃するまでは容易にこれを信じてはならない。何事にも内情を調べることに最善を尽くしなさい。裁判官は、いつも受刑者の側に立つべきであることを知っておきなさい。

6. 誰に関しても悪口を言ってはならない。さもないと特に言葉と言うものは、癌のように蝕むことになる。あなたの考えは、その人物の前に立つまで自分の胸にしまっておきなさい。

7. その人物に関してあなたがたが悪いと思うことは、正直に、なるべく早い時期に皆に告げなさい。そうでなければ、それは心の中で膿むことにな

---

<sup>9</sup> 藤本満『ウェスレーの神学』、393 頁

る。自分の胸の内から急いで燃える火を取り出しなさい。

8.紳士を気取ってはならない。

あなたがたは、ダンス教師の品格と何ら関わりがないのと同様、貴族趣味の品格とは無関係である。福音の伝道者は、すべての人のしもべである。

9.罪以外の何ものをも恥じてはならない。

(時間が許せば)薪を取ってくることから水を汲んでくること。自分の靴を磨いて隣人の靴を磨くことに至るまで。

10. 時間に正確であれ。何事も時間通りにしなさい。

そして概してソサエティーの規則を改めることなく、それを守りなさい。

叱られるからではなく自分の良心のために守りなさい。

11.あなたがたは、魂を救うこと以外の何事にも関わってはならない。

それ故、この仕事にすべてを費やし、費やされよ。そしてあなたがたを必要としている人々だけでなく、最も必要としている人々のところに常に行きなさい。あなたがたの職務は何回説教をすとか、特定のソサエティーの面倒を見るということではなくできるだけ多くの魂を救うことである。できるだけ多くの罪人を悔い改めに導き、全力を尽くして人々を聖潔に確立することである。その聖潔なしに神を見ることはできない。そして覚えておきなさい。メソヂストの伝道者はメソヂストの規律のいかなる点をも、それが小さなことでも大きなことでも、すべてを重要視すること。それ故、あなたがたはあらん限りの良識・常識を必要とし、抜け目のないようにしなさい。

12.すべてのことにあつて自分の意志に従つてでなく福音による神の子供として行動しなさい。

そのようなものとして、我々が指示する方法で時を費やすことである。すなわち説教をし、訪問し、読み、黙想し、祈ること。分けても、あなたがたが我々と共に神の葡萄畑で労するなら我々が願っている仕事の一部をあなたがするという。我々が神の栄光になると判断するような場所や時にその働きをなすことが、要求されているのである。

上記の「伝道者12則」と「ヘルパーの規則」を比べると、先にも述べたよう

に重複する部分もあるが、一致しない箇所が多くあることが分かる。

特に注目すべき点は、ウェスレーが1744年に第一回目の年会において記している(網かけで示した)「ヘルパーの規則」の4番目が削られ、「伝道者12則」において12番目として10の項目を加えている点である。

一般に「ウェスレーの伝道者12則」と言われているものは、ウェスレー自身が「伝道者12則」として明示したのではなく、ウェスレーの語った複数の箇所を統合し、一部を時代とともに編纂していたことが推測される。<sup>10</sup>そのため「伝道者12則」においては、1～11と12の項目では明らかに赴きを異としている。

「伝道者12則」では1～11までは簡潔にまとめられることができるが、12の項目の内容は1～11の項目と同じほど長く、そのため1～11の項目とのバランスを欠くものである。

論者は「伝道者12則」について以下の三点に関心を持って調査をした。

- i. 「伝道者12則」の12番目はどこから持ってきたのか、
- ii. いつ、4番目が削られ、現在の形になったのか、
- iii. どのような変遷を経て、「伝道者12則」となっていったのか。

これらの疑問が小論において「伝道者12則」のルーツを探る出発点となっている。

### C. 本多庸一と「伝道者12則」

日本メソヂスト教会の初代監督本多庸一が翻訳編纂委員の日本メソヂスト教会教義及條例において、「伝道者の12則」が「傳道者の行状」として記されていることは先に述べた。

佐々木は本多庸一について、「人に事へて導く」ことにおいて本多が、「日本メソヂスト教会制定の条例第五十七条八則の『罪惡の外何事をも恥る勿れ』と

---

<sup>10</sup> 11則の「メソヂストの規律」は、「伝道者12則」では、メソヂストを日本メソヂスト教会の「教会」と言い換えている。



Preacher's Conduct”<sup>12</sup>より翻訳されている。その中の「伝道師の行状」に「伝道者12則」が記されていることも先に述べた。田中亀之助の「ウェスレー傳」(167頁)において日本メソヂスト教会教義及條例が出典として上げられている。

## II 「伝道者 1 2 則」形成の流れの全体像

### A. 「伝道者12則」生成過程

Appendix Aに、「伝道者12則」生成の全体像の表を記した。

「伝道者12則」が形成されるまでの全体の流れを記すが、その前に、「伝道者12則」に関する資料について説明をする。

#### A資料 (A)

1744年の年会記録に The Rules of an Assistant として12の項目が記されている。<sup>13</sup> これをA資料 (A) とする。

#### new 11,別の11

1745年年会記録に「これらの12の項目以外に加えたほうが良いものは何か」、との質問に対して、

Only this:---You have nothing to do but to save souls. Therefore spend and be spent in this work. And go always ,not only to those who want you, but to those who want you most.

と答えている。このYou have nothing to do but to save souls.は後に説明を加えて、The Rule of a Helper<sup>14</sup>の11番目に加えられている。これをnew 11 (別の11) とした。

#### A'資料 (A') The Rule of a Helper

The Rules of a Helper は、1744年のThe Rules of an Assistant の項目9, 10を削除

---

<sup>12</sup> Appendix を参照

<sup>13</sup> 年会記録、1744年

<sup>14</sup> Works, viii, p. 309.

し、項目4<sup>15</sup>、11<sup>16</sup>[new11 (別の11)]が加えられ、全部で12項目としている。これをA'資料 (A) とした。<sup>17</sup>

TelfordはThe Rule of a Helperを引用し“Wesley’s twelve rules of a helper”を紹介をしている。<sup>18</sup>

#### **B資料 (B)** The Preacher’s Conduct

1747年の第4回年会において、「説教に関する有益なものと思われるもの」に関する質問に対して9項目があげられている。これをThe Preacher’s Conduct (1747) とする。これには後に現れない二つの項目がある。<sup>19</sup>このThe Preacher’s Conduct としたものをB資料 (B) とする。

BはLarge Minutes では21項目になる。これをB'資料 (B) とする。

1848年にはB'が10の項目になる。これをB”資料 (B”) とする。

#### **C資料 (C)** The Rules of a Preacher’s Conduct

1884年の年会資料では1880年までであった項目4の、「信仰の兄弟に相談することなしに結婚について話を進めてはならない。」が削られている。Aの1～3、5～12となった資料を資料C (C) とする。

### B. 調査結果

1884年の年会において作られた、Discipline (The Doctrine and Discipline the Methodist Episcopal Church) において、初めて「伝道者12則」の形になったことが判明した。

しかし、Rule. 12に関しては12則目であっても、12則ということばは使用していない。そのことから、1884年に「伝道者12則」の形にした年会の編集者はRule

---

<sup>15</sup> Take no step toward marriage, without first consulting with your brethren.

<sup>16</sup> You have nothing to do save souls. Therefore spend and be spent in this work. And go always, not only to those that want you, but to those that want you most.

<sup>17</sup> ウェスレーの存命中の Discipline of the Methodist Episcopal Church の 1784 年版にはこの A' が掲載されている。

<sup>18</sup> Wesley center online, John Telford, *The life of Wesley chap. 14*, (<http://wesley.nnu.edu/?id=96>) 2013年2月19日閲覧 *Wesley’s twelve rules of a helper are still cherished as the guiding principles of a Methodist preacher.*

<sup>19</sup> 二つの項目は、7. Beware of allegorizing or spiritualizing too much. と、9. Tell each other if you observe anything of this kind である。

1～11にはRuleを付け、12番目にはつけていないことから1880年の年会資料の二つの資料を鳩合<sup>20</sup>したことを意識していたものと思われる。

さらに、1907年のDisciplineでも12番目をRule.12としていない。日本メソヂスト教義及條例（1907）はDisciplineを翻訳しているので、そのために12項目目の第六十一條は十二則としていない。

### III. The Rules of an Assistant とヘルパーの規則の比較

第一回年会記録の、1744年6月29日（金）<sup>21</sup>にThe Rules of an Assistantが記されている。以下に記し<sup>22</sup>「ヘルパーの12の規則」（Large Minutes）と比較する。

Q. 3. What are the Rules of an Assistant?

A. 1. Be diligent. Never be unemployed a moment, never be triflingly employed, never while away time; spend no more time at any place than is strictly necessary.

2. Be serious. Let your motto be, 'holiness unto the Lord.' Avoid all lightness as you would avoid hell-fire, and laughing as you would cursing and swearing.

3. Touch no woman. Be as loving as you will but hold your hands off 'em. Custom is nothing to us.

4. Believe evil of no one. If you see it done, well. Else take heed how you credit it. Put the best construction to every thing. You know the judge is always supposed to be on the prisoner's side.

5. Speak evil of no one, else your word especially would eat as doth a canker. Keep your thoughts within your own breast till you come to the person concerned.

6. Tell everyone what you think wrong in him and that plainly and as soon as may be; else it will fester in your heart. Make all haste, therefore, to cast the fire out of your bosom.

---

<sup>20</sup> 田中は『ジョンウェスレー傳』において「第十二則、右の外守るべきもの佐の如し。」と記している。

<sup>21</sup> 1744年6月29日は水曜日のようにある。1742年は6月29日が金曜日である。

<sup>22</sup> Bennet's copy, p.15.

(<http://www.archive.org/stream/johnbennets00unknuoft#page/14/mode/1up> 2013年2月12日閲覧)。Outler, pp. 145-146.

7. Do nothing 'as a gentleman.' You have no more to do with this character than with that of a dancing-master. You are the servant of all; therefore:

8. Be ashamed of nothing but sin: not of fetching wood or drawing water, if time permit; not of cleaning your own shoes or your neighbour's.

9. Take no money of any one. If they give you food when you are hungry or clothes when you need them, it is good. But not silver or gold. Let there be no pretence to say we grow rich by the gospel.

10. Contract no debt without my knowledge.

11. Be punctual: do everything exactly at the time. And, in general, do not mend our rules but keep them, not for wrath but for conscience's sake.

12. Act in all things not according to your own will but as a son in the gospel. As such, it is your part to employ your time in the manner which we direct: partly in visiting the flock from house to house (the sick in particular): partly, in such a course of reading, meditation and prayer as we advise from time to time. Above all, if you labour with us in our Lord's vineyard, it is needful you should do that part of the work which we direct, at those times and places which we judge most for his glory."

de

1744年の年会記録「アシスタントの規則」(the Rules of an Assistant) と1744-89年の年会記録をまとめた「ヘルパーの12の規則」(Large Minutes)を比較すると、三箇所がAから変化したものであることが分かる。9, 10はAにはなくこの規則に特有のものであり、「ヘルパーの12の規則」には継承されなかった。Large Minutes は1744年～89年の年会記録を編纂している。

上掲表にnew11 と記されているが、Aにはnew11の内容のものは無い。

1745年の年会において、これら12の規則の他に加えるべきものは何かとの質問に対してウェスレーは「これのみである・・・あなたは魂を救う他何もしてはならない」<sup>23</sup>と記しているので、A (1744) → new11 (1745) → A' (1774-89)

---

<sup>23</sup> Q.1. Should any other rule be added to the twelve? A. Only this:---You have nothing to

となっていたのではないかと推測する。

「伝道者12則」の基礎（項目4以外）となるのはA'のThe Rules of a Helperであった。

#### IV. 「伝道者12則」の12項目目に関する項目の推移

先に、資料A, A'及びnew11(別の11)について説明をした。次に資料B, B'を見ていく。

Large Minutesにある、The Rules of a Helperの後に、「私達にとって説教に関して心がけるべき何か小さなアドバイスはあるでしょうか」という質問がされている。それに対して、ウェスレーは21の項目に渡って返答している。(B')<sup>24</sup>この項目は、後に「伝道者12則」に組み入れられているものが記されているが、この資料だけでは、どのようにして「伝道者12則」の12項目目が形成されていたかは分からない。

論者は1747年の年会記録にまず着目した。資料B (B) である。<sup>25</sup>

Bには九つの項目があるが、B'にはないものがある。項目1, 7, 8である。恐らくBが先に書かれ、後に21の項目になったものと推測する。

1784、1845年のDisciplineにはB'の存在は確認できなかった。確認できたのは1848年以降のDisciplineに「伝道者12則」とは別項目でB'が存在していたことである。

#### A. 大きな三つの流れ

「伝道者12則」生成の全体像表をAppendix Aに記したが、大きな三つの流れがその中にあるので、それについて説明を加える。

---

do but to save souls. Therefore spend and be spent in this work. And go always ,not only to those who want you, but to those who want you. 1745. Bennet's copy, p. 27.

<sup>24</sup> *Works*, viii, p. 317.

<sup>25</sup> Bennet's copy, p. 50.

### i. A'-The Twelve Rules of a Helper 1744年

ウェスレーは信徒伝道者、preacherを訓育した。清水によると「1745年以降ウェスレーは信徒説教者preacherをアシスタントとヘルパーという二つの名で区別した。<sup>26</sup>アシスタントは巡回区の責任者であり、組会チケットの発行、ウェスレーの権限の重要な代行者であり、ヘルパーは一般の説教者である」としている。

1744年の年会において、ヘルパーへのルールは何かとの質問に対して、ウェスレーが答えている。それがLarge Minutesの中に記されている“The Twelve Rules of a Helper”である。これが「伝道者12則」の一つのルーツとなっている。

<sup>27</sup>

「ヘルパーの12の規則」“The Twelve Rules of a Helper”の4番目には「信仰の兄弟に相談することなしに、結婚について話を進めてはならない」が記されている。この4番目は「伝道者12則」にはないので、追跡調査をした結果、1744年にThe Twelve Rules of a Helperが記されていること、1784年（ウェスレーの存命中）の記録<sup>28</sup>に4番目が記されていること、1796年（ウェスレーが召天（1791年）後）の記録<sup>29</sup>にも4番目は記されていることが分かった。即ち、ウェスレーの死後、現在の「伝道者12則」が作られたことが分かる。換言すると「伝道者12則」の形は、ウェスレーが存命中に作られたものではないということになる。

---

<sup>26</sup> 清水光雄『メソジストって何ですか』教文館、2007、61頁。

「特に1745年以降、信徒説教者はその役割をアシスタントとヘルパーの名で区別された(John Wesley, 175f)。ヘルパーは一般の説教者を意味し、今まですべての説教者に適用していたアシスタントは巡回区の責任者となり、チケットの発行権を持ち、ウェスレーの権限の重要な代行者となった。特に1746年の年会では、連合体のネットワーク作りのため英国全体を七つの巡回区(サーキット)に分割し、ウェスレーは説教者たちを各地に振り分け、メソジスト会の形成へと進んだ(*Works*, 8. 328f)。巡回の説教者たちは最初一か月単位の巡回期間であったが、組織拡大とともに、一年間を単位に任地を移動し(*Letters*, 3:195)その地域の伝道と会員の世話をを行った。」

<sup>27</sup> *Works*, viii, pp. 309-310. 藤本、前掲書 308頁

<sup>28</sup> *Discipline of the Methodist Episcopal Church*, 1784, p.8.

<sup>29</sup> *Discipline of the Methodist Episcopal Church*, 1796, p.21. 1784, 1796もMethod of receiving Preacher and their Dutyの項目にあり、The Preacher's conductという名称はない。

## ii. B-Rules for the Preacher's Conduct<sup>30</sup> (Rules for preaching) 1747年

1747年にウェスレーはRules for the Preacher's Conduct (*Rules for preaching*) として9つの項目を挙げている。この項目は「伝道者12則」の12番目にほぼ一致するが、どのような編纂がされているかは別項目で記す。これが二つ目のルーツとなる。

## iii. The Twelve Rules of a Helper

A'の第四項目を削り、B'の10小項目を12項目目に置いている。1848年～1880年までA'とB'が並行し、一つのまとまりとして存在していた。

一方、1884年になってA'の第4項目の「信仰の兄弟に相談することなしに、結婚について話を進めてはならない。」が削られ、CとなりCとB'が一つとなり「伝道者12則」が形成されている。

B. 「伝道者12則」形成の流れと、記されたタイトルなど

資料A, B, Cに関連する流れとDiscipline に出てくるタイトルを、**Appendix B**に表にした。

## V. 「伝道者12則」の変遷のまとめ

- A. ウェスレーは1744年にThe Twelve Rules of an Assistant (A)を残した。そして1747年にSmall advices concerning preaching に対して答える形で年会記録に残している。これがRules for the Preacher's Conduct (B)である。
- B. Disciplineには1845年まで説教者の留意点として、A'のThe Twelve Rules of

---

<sup>30</sup> *Minutes of the Methodist Conferences*, Vol. 1, 1744-1798, London: Manson, 1862, p.50. (<http://www.archive.org/stream/johnbennets00unknuoft#page/50/mode/2up>) 2013年2月12日閲覧。1747年の年会で any smaller advices concerning preaching を求めた質問に対しての答えであるが、1747年の small advices concerning preaching を便宜上 Rules for the Preacher's Conduct とした。

a Helperの内容が記されていた。

- C. 1848年にはThe Twelve Rules of a Helper (A)の内容の下に別項目でB'を多少修正したB''を挿入し、Rules for a Preacher's Conduct としている。The Rule of a Helper の第4項目は1880年まで残っている。
- D. 1884年には上記の4番目が削られ、12番目として1848年に追加されたB''が入ってくる。なお、1884年に記されているDisciplineには項目108<sup>31</sup>の後にRules for the Preacher's Conductというタイトルの下に、109にRule. 1が入ってくる。1880年のDiscipline にもRules for the Preacher's Conductというタイトルの下に項目が列挙されるのであるが、B''は別項目に並記されていた。
- E. 1907年はCとB''が合併した1884年と同様Rules for the Preacher's Conductとして記録されている。

これらの調査の結果、「伝道者12則」と伝えられている元となるものは1907年のRules for the Preacher's Conductの事であり、本多庸一らが日本メソジスト教会の條例として翻訳し、そこにある12の項目を指すことが分かった。<sup>32</sup>しかし、12番目を十二則として記しているのは田中である。

ウェスレーがLarge Minutes, 年会記録に記した「ヘルパーの規則」(The Rules of a Helper) A'は1845年まで独立してそのままの形で残っていた。

ところが、1848年には、ウェスレーが説教者の為に記したルールが別項目として編纂された。<sup>33</sup>さらに1884年には「ヘルパーの規則」の4番目が削られ、

---

<sup>31</sup> 108. As long as these marks concur in any one, we believe he is called of God to preach. These we receive as sufficient proof that he is moved by the Holy Ghost.

Are they holy in all manner of conversation? とあり、日本メソジスト教会教義及條例においてはp. 59「第四章 教職 第一節 資格及び職掌 第一欸 第49條 聖靈に感じて伝道せんとするものを査察するために次の問いをなすべし。第一 彼らは神の己の罪を赦し玉(給?原文は玉)ふを知るか。神を愛するの愛恒に其心にあるか。彼等は神を楽しむの他に何等の欲望を有せざるか。其言行みな聖なるか。」とある。この後にある伝道者の行状も1907年版(p. 42)と一致するので、1907年版 Discipline から日本メソジスト教会教義及條例(1908印行)が翻訳されていることが分かる。

<sup>32</sup> 日本メソジスト教会教義及條例では「伝道師の行状」と訳されているが、「行状」は1907年版 Discipline に沿って翻訳されている。

<sup>33</sup> 別項目とは1~12(A')が記されたすぐ後に、Quest. 2. Are there any smaller advice which might be of use to us? Answ. Perhaps these: 1. Be sure never to disappoint a congregation. と続く。Telfordは“Wesley's twelve rules of a helper”としている。

この年から12番目に今まで別項目に記された、説教者の為に記したルールが合併されている。これらが通称、「伝道者の12則」と言われるものとなった。原文では12の項目が記されて後、Quest(ion).2. Are there any smaller advices which might be of use to us? Answ(er). Perhaps these: 1. Be sure never to disappoint a congregation. と別項目に並記されている。

以上のことから、「伝道者12則」は大きな三つのソースから1848年に別項目ながら一つのまとまりにし、そして1884年に編纂され、初めて「伝道者12則」の12の項目が記されたということが分かる。

## VI. “The Preacher’s Conduct 1747 (B) の2, 7, 9及び1からの考察

### A. Sing no hymns of your own composing.(B2)

ウェスレーは賛美歌の中に明確なメゾジストの教理を入れた。たとえチャールズ作の歌詞であっても、最終的には独裁的にウェスレーが教理に合致した歌詞を作り印刷した。ウェスレーにとって、賛美歌は雰囲気で作られ歌うものでも、他の教派の賛美をそのまま取り入れ賛美すれば良いというものでは無かった。繰り返し歌われる歌詞に神学的根拠を付与すると、次第に会衆はウェスレーが考えているメゾジストの教理を体得するようになる。それゆえウェスレーは心血を注ぎ、歌われる歌詞に対して注意をしていた。

勝手に作られ、ウェスレーの検閲を経ない賛美歌が作られるとする。そして、その歌詞はウェスレーの教える教理とは合致していないが、良く歌われるようになると仮定する。すると良く歌われるこの賛美の歌詞が会衆における信仰の基礎となっていつてしまう。そのためにウェスレーは自分で作曲した「賛美を歌うな」として群を導く説教者に指導をしていたのであろう。<sup>34</sup>

---

<sup>34</sup> 2012年日本ウェスレー・メゾジスト学会において山本美紀が「ウェスレー書記の賛美歌を見るーFoundry Collection よりー」の講演をした。出版された Foundry Collection には歌詞は載っているが、一般会衆が歌えない音域のものがしばしば見られたと報告があった。Foundry Collection において見られるのは、この本がウェスレーの作によるものであれば、ウェスレーの関心は歌われる歌詞にあったので、歌わ

ウェスレーあつての第二項目（2. Sing no hymns of your own composing.）であつたので、時代とともに第二項目の必要性は別のものに移譲されていく。ウェスレーの死後やがてThe Methodist Episcopal Churchに賛美歌委員会、そしてその中に賛美歌神学委員会のようなものが作られていたら、それが第二項目の受け皿になつたと思われるが、どうして第二項目が無くなつたかは不明である。

ウェスレーの懸念しているのは、自分で作つた賛美歌の中にメソジスト神学が正しく含まれているかということであるので、第二項目は現代のメソジストの我々に、賛美歌の中にメソジスト神学が正しく継承されているか、または神学がどのように反映されているかという問いかけにもなる。

## B. Beware of allegorizing or spiritualizing too much.(B7)

ウェスレーは「牧師への勧告」で、メソジスト説教者に対して高基準の勧めをしている。この説教の内容にはRules for preacher's conductsやThe Twelve Rules of a Helperにも共通点がある。以下に引用する。

・第三に彼はこれを最も効果的に、言語学的な知識なしに行う事ができるでしょうか。これがなければ、テキストに対して私たちは頻繁に戸惑うことになるのです。・・・

・第九に注意深さの次に（そこには含まれませんが）牧会は教養がなければなりません。どこにおいても、挨拶の仕方、気軽さ、行動の礼儀正しさ、また（彼はすべてのもののしもべであるので、堂々としていることはありませんが）紳士の礼儀正しさをもち、学舎のような正確さを持つ必要があります。

このために、特に公の牧会におおいて、強く、明快で、音調の美しい声で、発音においても、行動においても良い演説をしなければなりません。・・・たとえかなり弱くて、聞きにくい声であっても、継続していれば、必ず強く、聞きやすい声になるのです。

・牧会者は、神に全く献身しているだけですから、万全なる注意と勤勉さ

---

れる音域には関心がなかったと考えられないだろうか。山本はウェスレーについて、彼はフルートを良く奏でていたので、会衆が歌えない音域であってもフルートで無理なく吹いていたのかもしれないと推論していた。

をもって、禁欲的な生活を送らなければいけません。

・結果としての、牧会の生活全体は、召しにふさわしく歩むならば、神を誉めたたえつづけ、人を助け、感謝と恩恵を被るのです。彼は常に、謙虚で真面目で、常に喜んでおり、温和で、優しく、忍耐強く、禁欲的なのです。

・ギリシャ語とヘブライ語を理解していますか。(各牧者が行うように)書かれている本を説明するだけでなく、反対者に対して防御できるでしょうか。原典を理解している者や理解しているふりをしている人の憐れみによっているのではないのでしょうか・・・<sup>35</sup>

上記のものを考察すると、ウェスレーの牧会者に期待した基準の高さを容易に想像することができる。

医者にとって、基礎研究が必要であるように、牧会者も基礎研究が必要である。しばしば医師は生検のために顕微鏡を見るようにして、牧会者自らも原典にあたることや、またテキストの前後関係、歴史的背景、文化、聖書全体としてのバランスなどを考えた上で、神からのメッセージを汲み取るために直接一つ一つのことばを観察する謙虚さが重要である。

寓話的に何でも捉えたり、寓話的に捉えるために前後の文脈も無く、自分の思いつきで説教をしてしまうことを予防するために原典に当たることや、またテキストから離れすぎて、寓話的な解釈が一人歩きしないことを警戒したものと考えられる。

ウェスレーがメソジストの初めとしているホーリークラブで、ウェスレー達はラテン語、ギリシャ語、ヘブル語読み、それらの言語で書かれた聖書を読み、恵みを分かち合うことができた。それはホーリークラブの会員にとっては日常のことであった。

そのままを現代のメソジストの牧師に適応する事はできないが、みことばに

---

<sup>35</sup> John Wesley, "An Address To The Clergy", Vol.10, p.480, in *The Works of the Rev. John Wesley*, M.A. edited by Thomas Jakson.1829-1831. 坂本誠訳。

対して、謙虚になる姿勢と、聖書に聴く態度を持たなければならないと考える。

### **C. Tell each other, if you observe anything of this kind. (B9)**

組会、班会 (Class, Band) の特徴として互いに愛し、互いに責任を持つというものがあった。愛をもって真実を語ることは、互いが成長していく上で必要な条件となる。和を尊ぶ日本人は、愛をもって真実を語ることで、関係が崩れることを恐れることがある。相手の信仰者が違うことをしていると認識していても直接真実を語らないことがある。そして神が信仰者に語れと導かれているのに、愛をもって真実を語らないことが「愛の姿」であると誤解しているところがないだろうか。

ワトソンは組会の特徴について、組会、班の構成メンバーが相互に責任をもつことということを挙げている。<sup>36</sup> B'ではこの部分が削られたが、「伝道者12則」6則にその精神は受け継がれていると思われる。

### **D. Be sure to begin and end at the time**

ウェスレーは説教で、時間に対して神に対して良い管理者であることを語っている。<sup>37</sup> また神の前に、人の前に説明責任ができることを考えていた。時間通り始まり、そして時間通りに終わることはウェスレーにとって一つのメソッドであった。The Rules of a Helper (1744-89)には“end at the time”があるが、1848年の年会記録には削除されている。時間を忘れて説教に聴き入るとしたら幸いであるが、説教者が語りたいたことが多くあるからと言って、終わる時間を意図的に無視して語ることは、ウェスレーの説教者としてのメソッドには含まれていなかったように思える。また、「伝道者12則」9則にその精神が現れている。

---

<sup>36</sup> Watson, David Lowes, *The Early Methodist Class Meeting : It's Origins and Significance*, pp. 134-144.

<sup>37</sup> *The Bicentennial Edition of the Works of John Wesley* Vol.2. p287.

## 結論

### A. 三つの課題から

#### i. 「伝道者12則」の12番目はどこから来たのか。

1747年のThe Preacher's Conduct と1744-1789年のLarge Minutesが元となり1848年のDisciplineでは別項目に並記された。

#### ii. いつ、4番目が削られ、現在の形になったのか。

1884年のDisciplineで4番目の項目は削除された。

#### iii. どのような変遷を経て、「伝道者12則」となっていったのか。

大きな流れとしてA類 (A,A') B類 (B,B',B'') そしてCとがあり、1884年にThe Rule of a Helperの4番目が削除されA'はCとなりB''と合併し、現在の「伝道者12則」の形となった。

1907年版のDisciplineを本多庸一らが翻訳し、日本メソヂスト教会教義及び條例において、「伝道者の行状」として「伝道者12則」がメソヂスト伝道者の霊的な方向付けをもって記された。

### B. 今後の課題

メソヂスト派の神学校、メソヂストの伝道者、メソヂスト派の教会、教団においてどのくらいこのウェスレーの「伝道者12則」が受け継がれ、その霊性が学ばれ、伝道者の座右の銘となっているのかを調査する事が一つの課題である。

### C.感想

「伝道者12則」と言われているものは、以上見て来たように、ウェスレーによって「伝道者12則」という形で書かれているものではない。

しかしながら、どれをとってみてもウェスレーの牧会者への配慮と宣教の情熱が伝わるものである。「伝道者12則」を吟味し、実際に牧会に適応し習慣化することによって、「伝道者12則」の意味を体得していけるのでは無いかと考える。

る。

さらに、「伝道者12則」に現れていない、消去された項目や加えられたものの中にも、伝道者の弁えが教えられている。「伝道者12則」を学ぶとともにそれらを自らの基準として捉えることは靈性の成長に有益だと考える。また、伝道者としての救霊に対する情熱、研ぎ澄まされた靈的な牧会者として研鑽するために「伝道者12則」は非常に有益である。現代メソヂストの流れにある伝道者は「伝道者12則」を真剣に再考する必要があるのではないだろうか。

そして、「伝道者12則」とともに、Rules of the Band Societies を学ぶことによってメソヂストの靈性を深めることができるのではないだろうか。

ウェスレーは野外でマイクなしで大会衆に向かって路傍説教をしていた。現代では野外説教の機会があるときにも、また礼拝堂の中でもマイクがあるために、説教者の声が小さくなり、大胆さや、発音が不明瞭になったり、ジェスチャーなどの非言語のパフォーマンスを疎かになり、「伝道者12則」がいつのまにか、過去の遺産になってしまうことに警戒しなければならない。ウェスレーは現代においても語っているのである。

(イムマヌエル綜合伝道団 富士見台基督教会 牧師)

#### 追記

この研究と周辺の研究のために、ジョージ・ギッシュ先生、気賀健生先生、佐々木竜太先生、青山学院大学資料センター、傳農和子先生、長山信夫先生、長村亮介先生、岸憲秀先生、坂本誠先生、三森春生先生、藤本満先生、相原雄二先生、田代幸雄先生、蔦田緑乃先生はじめ多くの方々のご教導とご助言等を頂きました。深く感謝申し上げます。

青山学院大学にDisciplineの豊富な資料がなかったら研究は頓挫していたと思います。

参考文献

- 青山学院編『本多庸一』（青山学院、東京、1968年）
- 田中亀之助『ジョン・ウェスレー傳』（教文館、1929年、昭和4年）
- 清水光雄『メソジストって何ですか』（教文館、2007年）
- 高木壬太郎編纂『本多庸一先生遺稿』（日本基督教興文協會、1918年）
- 本多庸一『日本メソヂスト教会教義及條例』（教文館、1908年、明治41年）
- 西堂昇『日本メソヂスト教会教義及條例資料』（更新伝道会、1992年）
- 藤本満『ウェスレーの神学』（福音文書刊行会、1990年）
- 佐々木竜太「本多庸一における“Man”概念の研究-青山学院の指導精神とメソヂズムを中心として」（『青山学院大学紀要』48, 2006年）
- Albert C. Outler, *John Wesley*, Oxford University Press, 1980.
- David Lowes Watson, *Forming Christian Disciples*, Wipf and Stock Publishers, 1991.
- David Lowes Watson, *The Early Methodist Class Meeting*, Wipf and Stock Publishers, 1985.
- Kevin M. Watson, *A Blueprint for Discipleship : Wesley's General Rules as a Guide for Christian Living*, Disciplineship Resources, 2009.
- John Bennet, *John Bennet's copy of the minutes of the conferences of 1744, 1745, 1747 and 1748: with Wesley's copy of those for 1746*, The Wesley Historical Society, London, 1896.
- John Telford, *The Life of John Wesley*, The Epworth Press, London, 1924.
- John Wesley, *The Works of John Wesley* Vol.8 of *The Works of the Rev. John Wesley*, M.A., ed., Thomas Jackson . reprint, Grand Rapids, MI: Baker Book House, 1979
- John Wesley, “An Address To The Clergy ”, vol.10 of *The Works of the Rev. John Wesley*, M.A., ed., Thomas Jackson, 1829-1831; reprint, Grand Rapids, MI: Baker Book House, 1979.
- John Wesley ,“Sermon #51 ‘The Good Steward’ vol2 of *The Bicentennial Edition of the Works of John Wesley* ed. Albert Outler. Nashville. Abingdon Press. 1985.
- The Doctrines and Discipline of the Methodist Episcopal Church*, (1747, 1784, 1796, 1798, 1844, 1845, 1848, 1872, 1880, 1884, 1886, 1907, 1912, 2009年版)

## APPENCICES

- Appendix A 伝道者12則」に関する生成の全体像
- Appendix A 伝道者12則」形成の流れと記されたタイトルなど
- Appendix C Discipline of the Methodist Episcopal Church (1907年版)
- Appendix D 史料A 1744 年会記録 The Rules of an Assistant
- Appendix E AとA'にあったと思われるnew11 1745 年会記録
- Appendix F 史料B 1747 Bennet's copy p.50 (Preacher's conduct)
- Appendix G 史料B' 1744-1789, *Works*, viii, p. 317.
- Appendix H 史料C The Rule's of a Preacher's Conduct. 1884  
(Discipline)



## Appendix B 「伝道者12則」形成の流れと記されたタイトルなど

| 年代  | A,B,C 等         | 記されているタイトルなど  |
|---|-----------------|---|
| 1744年<br>Bennet<br>p. 15.   | A               | The Rules of a Helper <sup>38</sup><br><b>Q26. What are the rules of a Helper?</b>  |
| 1747年   | B'              | Small advices concerning preaching. <b>Rules for the Preacher's Conduct.</b> <sup>39</sup>  |
| *以下Discipline of the Methodist Episcopal Church <sup>40</sup> を調べた。 |                 |   |
| 1784年<br>p. 8.  | A'              | Quest(ion) 3, What is the duty of a Preacher?   |
| 1791年   |                 | Wesley passed away.   |
| 1796年<br>p. 21.   | A'              | Quest(ion) 3, What are the directions given to a Preacher?  |
| 1798年<br>p. 21.   | A'              | ”   |
| 1844年<br>p. 38.   | A'              | ”   |
| 1845年<br>p. 38.   | A'              | ”   |
| 1848年<br>p. 44.   | A'+B"<br>(別項目)  | SECTION IX<br>Of the Rules for a Preacher's Conduct.<br>Quest.1, What are the directions given to a preacher?<br>CについてAの12番目の後にBが並行するようにして続く。<br>Quest.2. Are there any smaller advices which might be of use to us?<br>Answ. Perhaps these: 1. Be sure never to disappoint a congregation. 2. Begin at the time appointed ... とある。 |
| 1872年<br>pp.38-40.  | A'+ B"<br>(別項目) | SECTION II, Rule for a Preacher's Conduct.<br>143 Rule 1. Be diligent ...<br>別項目で156からB''が記されている。<br>156. Smaller advices which might be of use to us, are perhaps these: 1. Be sure never to disappoint a congregation.  |
| 1880年<br>p. 80.   | A'+B"<br>(別項目)  | Rule for a Preacher's Conduct.<br>104. Rule1. Be diligent ...<br><b>Rule 4. Take no step toward marriage without first advising with your brethren.</b>   |

<sup>38</sup> Minutes of several conversations, *Works*, viii, pp. 309-310. 藤本『ウェスレーの神学』、393頁

<sup>39</sup> Isaac Watts (1674-1748) は Rules for the Preacher's Conduct を記している。バクスター、ワッツはウェスレーに面識があり、影響を与えた人物である。ウェスレーはワッツの Rules for the Preacher's Conduct を読んでいたであろう。しかし、内容についてはウェスレーのものとは違うものである。Richard Baxter; *Isaac Watts, Pastor's Manual, a selection of tracts, on Pastoral Duty*; (Sawyer. Ingersoll and company ,Hudson, Ohio, 1852) . (<http://archive.org/stream/pastorsmanualsel00baxt#page/n5/mode/2up>), 2013年2月12日閲覧。

<sup>40</sup> 約4年ごとに行われる年会で“Discipline”で発刊されたようである。

|                          |                      |  |
|--------------------------|----------------------|--|
| <p>1884年<br/>p. 107.</p> | <p>C+B”<br/>(合併)</p> | <p>Part II-Chapter II THE MINISTRY.<br/>The Examination of Persons who think they are moved by the Holy Ghost to Preach.<br/>Rules of a Preacher’s conduct<br/>109. Rule1. Be diligent. Never be unemployed. Never be triflingly employed. Never trifle away time ; neither spend any more time at any place than is strictly necessary.<br/><b>112. Rule4. Believe evil of no one without good evidence; ...</b><br/><b>120. Rule11. まではRuleと番号が連番で記されているが、121. Smaller advices which might be of use to us</b>となっている。1884年の編集者はあえてRule12とはしていない。</p> |
| <p>1886年<br/>p. 85.</p>  |                      | <p>Preacher’s conduct は見つけられなかった。<br/>この版は1884年のものよりコンパクトで携帯しやすいサイズ。<br/>Will you especially observe the following directions?<br/>1 Be diligent . Never be unemployed. Never be triflingly employed ...<br/>2 Be punctual. Do every thing exactly at the time. And do not ment our rules ,but keep them: not for wrath, but conscience’ sake.<br/>3 Act in all things not according to your own will but as a son in the gospel ...<br/>この三項目のみ。</p>  |
| <p>1888年<br/>p. 106.</p> | <p>C+B”<br/>(合併)</p> | <p>Part II – Chapter II THE MINISTRY.<br/>The Examination of Persons who think they are moved by the Holy Ghost to Preach.<br/>Rule for the preacher’s conduct.<br/>106. Rule 1. Be diligent ...</p>   |
| <p>1907年<br/>p. 42.</p>  | <p>C+B”<br/>(合併)</p> | <p>日本メソヂスト教会教義及條例の伝道者の行状、「伝道者12則」の元となつた版<sup>41</sup>。<br/>CHAPTER IV THE MINISTRY<br/>SECTION I Qualifications and Work.<br/>II. Rules for a Preacher’s Conduct.<br/>50. Rule 1. Be diligent ...<br/>60. Rule.11の後61では、61. Smaller advices which might be of use to us are perhaps these となっている。</p>  |

## Appendix C “Discipline of the Methodist Episcopal Church” (1907年版)

<sup>41</sup> 1907年版 Discipline, p. 42 には Chapter IV, THE MINISTR. SECTION I . Qualifications and Work. I. The Call to Preach. 49. In order that we may try those persons who profess to be moved by the Holy Ghost to preach, let the following questions be asked, namely: 1. Do they know God as a pardoning God? Have they the love of God abiding in them? Do they desire nothing but God?

“Discipline of the Methodist Episcopal Church” (1907年版)

“Rules for a Preacher’s Conduct”, p43-44.

50. Rule I. Be diligent. Never be unemployed. Never be triflingly employed. Never trifle away time: neither spend any more time at any pace than is strictly necessary.

51. Rule 2. Be serious. Let your motto be, “Holiness to the Lord.” Avoid all lightness, jesting, and foolish talking.

52. Rule 3. Converse sparingly, and conduct yourself prudently with women (Tim. v, 2).

53. Rule 4. Believe evil of no one without good evidence; unless you see it do not take heed how you credit it. Put the best construction on everything. You know the judge is always supposed to be on the prisoner’s side.

54. Rule 5. Speak evil of no one, because your word, especially, would eat as doth a canker. Keep your thoughts within your own breast till you come to the person concerned.

55. Rule 6. Tell every one under your care what you think wrong in his conduct and temper, and that lovingly and plainly, as soon as may be: else it will fester in your heart. Make all haste to cast the fire out of your bosom.

56. Rule 7. Avoid all affectation. A Preacher of the Gospel is the servant of all.

57. Rule 8. Be ashamed of nothing but sin.

58. Rule 9. Be punctual. Do everything exactly at the time. And do not mend our rules, but keep them; not for wrath, but for conscience’s sake.

59. Rule 10. You have nothing to do but to save souls: therefore spend and be spent in this work: and go always not only to those that want you, but to those that want you most. Observe! It is not your business only to preach so many times, and to take care of this or that Society, but to save as many as you can; to bring as many sinners as you can to repentance, and with all your power to build them up in that holiness without which they cannot see the Lord. And remember! A Methodist Preacher is to mind every point, great and small in the Methodist Discipline! Therefore you will need to exercise all the sense and grace you have.

60. Rule 11. Act in all things not according to your own will, but as a son in the Gospel.

As such, it is your duty to employ your time in the manner in which the Discipline directs, in preaching, and visiting from house to house; in reading , meditation and prayer. Above all, if you labor with us in the Lord's vineyard, it is needful you should do that part of the work assigned you by the constituted authorities of the Church, at to those times and places which they judge most for His glory.

61. Smaller advices which might be of use to us are perhaps these:

1. Be sure never to disappoint a congregation.
2. Begin at the time appointed.
3. Let our whole deportment be serious, weighty, and solemn.
4. Always suit your subject to your audience.
5. Choose the plainest text you can.
6. Take care not to ramble, but keep to your text, and make out what you take in hand.
7. Take care of anything awkward or affected, either in your gesture, phrase, or pronunciation.
8. Do not usually pray extempore above eight or ten minutes(at most) without intermission.
9. Frequently read and enlarge upon a portion of Scripture; and let young Preachers often exhort without taking a text.
10. Always avail yourself of the great Christian festivals by preaching on the occasion.

## Appendix D 史料A 1744 年会記録 The Rules of an Assistant

1. Be diligent, never be unemployed a moment, never be triflingly employed, [never while away time,] spend no more time at any place than is strictly necessary.
2. Be serious. Let your motto be, Holiness unto the Lord. Avoid all lightness as you would avoid hell-fire, and laughing as you would cursing and swearing.
3. Touch no woman; be as loving as you will, but hold your hands off'em. Custom is nothing to us.
4. Believe evil of no one. If you see it done, well; else take heed how you credit it. Put the best construction on You know the judge is always allowed [supposed]to be on the prisoner's side.
5. Speak evil of no one; else your word especially would eat as doth a canker. Keep your thoughts within your [own] breast, till you come to the person concerned.
6. Tell everyone what you think wrong in him, and that plainly, and as soon as may be, else it will fester in your heart. Make all haste, therefore, to cast the fire out of your bosom.
7. Do nothing as a gentleman: you have no more to do with this character than with that of a dancing-master. You are the servant of all, therefore.
8. Be ashamed of nothing but sin: not of fetching wood, or drawing water, if time permit; not of cleaning your own shoes or your neighbour's.
9. Take no money of any one. If they give you food when you are hungry, or clothes when you need them, it is good. But not silver or gold. Let there be no pretence to say, we grow rich by the Gospel.
10. Contract no debt without my knowledge.
11. Be punctual: do everything exactly at the time; and in general do not mend our rules, but keep them, not for worth but for conscience sake.
12. Act in all things not according to your own will, but as a son in the Gospel. As such, it is your part to employ your time in the manner.

Appendix E AとA'にあったと思われるnew11 1745 年会記録

Q.1. Should any other rule be added to the twelve?

A. Only this:--- **You have nothing to do but to save souls.** Therefore spend and be spent in this work. And go always, not only to those who want you, but to those who want you most.

A' 1744-89 The Rule of a Helper

A. (1.) Be diligent. Never be unemployed a moment. Never be triflingly employed. Never while away time; neither spend any more time at any place than is strictly necessary.

(2.) Be Serious. Let your motto be, "Holiness to the Lord." Avoid all lightness, jesting, and foolish talking.

(3.) Converse sparingly and cautiously with woman; particularly, with young women.

(4.) Take no step toward marriage, without first consulting with your brethren.

(5.) Believe evil of no one; unless you see it done, take heed how you credit it. Put the best construction on every thing. You know the Judge is always supposed to be on the prisoner's side.

(6.) Speak evil of no one; else your word especially would eat as doth a canker. Keep your thoughts within your own breast, till you come to the person concerned.

(7.) Tell every one what you think wrong in him, and that plainly, as soon as may be; else it will fester in your heart. Make all haste to cast the fire out of your bosom.

(8.) Do not affect the gentleman. You have no more to do with this character than with that of a dancing-master. A Preacher of the gospel is the servant of all.

(9.) Be ashamed of nothing but sin: Not of cleaning your own shoes, or your neighbor's.

(10.) Be punctual. Do everything exactly at the time. Ad in general, do not mend our Rules, but keep them; not for wrath, but fore conscience' sake.

(11.) You have nothing to do but to save souls. Therefore spend and be spent in this

work. And go always, not only to those that want you, but to those that want you most. Observe: It is not your business to preach so many times, and to take care of this or that society; but to save as many souls as you can; to bring as many sinners as you possibly can to repentance, and with all your power to build them up in that holiness without which they cannot see the Lord. Ad remember! A Methodist Preacher is to mind every point, great and small, in the Methodist discipline! Therefore you will need all the sense you have, and to have all your wits about you!

(12.) Act in all things, not according to your own will, but as a son in the Gospel. As such, it is your part to employ your time in the manner which we direct; partly , in preaching and visiting from house to house; partly, in reading, meditation, and prayer. Above all, if you labour with us in our Lord's vineyard, it is needful that you should do that part of the work which we advise, at those times and places which we judge most for his glory.

#### **Appendix F 史料B 1747 Bennet's copy p.50 (Preacher's conduct)**

1. Be sure to begin and end precisely at the time appointed.
2. Sing no hymns of your own composing.
3. Endeavour to be serious, weighty, and solemn in your whole deportment before the congregation.
4. Choose the plainest text you can.
5. Take care not to ramble from your text, but keep close to it, and make out what you undertake.
6. Always suit the subject to the audience.
7. Beware of allegorizing or spiritualizing too much.
8. Take care of anything awkward or affected, either in your gesture or pronunciation.
9. Tell each other if you observe anything of this kind.

**Appendix G 史料B' 1744-1789, Works, viii, p. 317.**

1. Be sure never to disappoint a congregation unless in case of life or death.
2. Begin and end precisely at the time appointed.
3. Let your whole deportment before the congregation be serious, weighty and solemn.
4. Always suit your subject to your audience.
5. Choose the plainest texts you can.
6. Take care not to ramble; but keep to your text, and make out what you take in
7. Be sparing in allegorizing or spiritualizing.
8. Take care not anything awkward or affected, either in your gesture, phrase, or pronunciation.
9. Sing no hymns of your own composing.
10. Print nothing without my approbation.
11. Do not usually pray above eight or ten minutes (at most) without intermission.
12. Frequently read and enlarge upon a portion of the Notes. And let young Preachers often exhort, without taking a text.
13. In repeating the Lord's Prayer, remember to say "hallowed," not hollowed;
14. Repeat this prayer aloud after the Minister, as often as he repeats it.
15. Repeat after him aloud every confession, and both the doxologies in the Communion-Service.
16. Always kneel during public prayer.
17. Everywhere avail yourself of the great festivals, by preaching on the occasion, and singing the hymns, which you should take care to have in readiness.
18. Avoid quaint words, however in fashion, as object, originate, very, high, &c.
19. Avoid the fashionable impropriety of leaving out the u in many words, as honor, vigor, &c. This is mere childish affectation.
20. Beware of clownishness, either in speech or dress. Wear no slouched hat.
21. Be merciful to your beast. Not only ride moderately, but see with your own eyes that your horse be rubbed, fed, and bedded.

(1) Bにあつて、B'にはないものは

7. Beware of allegorizing or spiritualizing too much.

9. Tell each other if you observe anything of this kind.

以上2項目が独自のもの。B'に継承されなかったと思われる。

(2) BからB'継承、削除、変更されたものは

1→別の1 unless in case of life or death.

2→1

3→3 同じ内容、表現が違う

4→5

5→6

6→4

7→削除

8→8 phrase が加えられているが、ほぼ同じ。

9→2 Begin and end と endがある。1848のDisciplineにはend が削除されている。

#### **Appendix H 史料C. The Rule's of a Preacher's Conduct. 1884 (Discipline)**

109. Rule 1. Be diligent. Never be unemployed. Never be triflingly employed. Never trifle away time; neither spend any more time at any place than is strictly necessary.

110. Rule 2. Be Serious. Let your motto be, "Holiness to the Lord." Avoid all lightness, jesting, and foolish talking.

111. Rule 3. Converse sparingly, and conduct yourself prudently, with women. (1Tim.v,2.)

112. Rule 4. Believe evil of no one without good evidence. You know the judge is always supposed to be on the prisoner's side.

113. Rule 5. Speak evil of no one; because your word, especially, would eat as doth a canker. Keep your thoughts within your own breast till you come to the person concerned.

114. Rule 6. Tell every one under your care what you think wrong in his conduct and temper, and that livingly and plainly, as soon as may be: else it will fester in your heart. Make all haste to cast the fire out of your bosom.

115. Rule 7. Avoid all affectation. A preacher of the Gospel is the servant of all.

116. Rule 8. Be ashamed of nothing but sin.

117. Rule 9. Be punctual. Do every thing exactly at the time. And do not mend our Rules, but keep them, not for wrath, but conscience' sake.

118. Rule 10. You have nothing to do but to save souls, therefore spend and be spent in this work; and go always not only to those that want you, but to those that want you most.

119. Observe! It is not your business only to preach so many times, and to take care of this or that Society, but to save as many as you can; to bring as many sinners as you can to repentance, and with all your power to build them up in that holiness without which they cannot see the Lord. And remember! A Methodist preacher is to mind every point, great and small, in the Methodist Discipline! Therefore you will need to exercise all the sense and grace you have.

120. Rule 11. Act in all things not according to your own will, but as a son in the Gospel. As such, it is your duty to employ your time in the manner in which we direct: in preaching, and visiting from house to house; in reading, meditation, and prayer. Above all, if you labor with us in the Lord's vineyard, it is needful you should do that part of the work which we advise, at those times and places which we judge most for His glory.

121. Smaller advices which might be of use to us, are perhaps these: 1. Be sure never to disappoint a congregation. 2. Begin at the time appointed. 3. Let your whole deportment be serious, weighty, and solemn. 4. Always suit your subject to your audience. 5. Choose the plainest text you can. 6. Take care not to ramble, but keep to your text, and make out what you take in hand. 7. Take care of any thing awkward or affected, either in your gesture, phrase, or pronunciation. 8. Do not usually pray extempore above eight or ten minutes (at most) without intermission. 9. Frequently read and enlarge upon a portion of Scripture; and let young preachers often exhort without taking a text. 10. Always avail yourself of the great festivals by preaching on the occasion.